新潟市平和推進事業

令和４年度

広島平和記念式典等派遣事業感想文集

新　潟　市

発行にあたって

新潟市では、平成 17 年 10 月 10 日に「非核平和都市宣言」を行い、環日本海の友好・交流の拠点都市として、世界の恒久平和と核兵器の不拡散・廃絶を願い、さまざまな平和推進事業を実施しています。

この平和推進事業の一環として、毎年広島市で開催される広島平和記念式典等に市内中学生を派遣しており、現地でしか感じることのできない原爆の被害や戦争の悲惨さ、平和の尊さについて深く認識してもらい、その体験を語り継ぐ取組を行っています。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、昨年、一昨年と２年続けて派遣事業を中止していましたが、今年度は、公募による市内中学２・３年生８名の参加により、「広島平和記念式典等派遣事業」を再開しました。

また、派遣事業に参加した中学生は、新潟市内の戦争被害がもっとも大きかった 8 月 10 日に毎年行っている平和祈念碑献花式にも参列し、戦争当時の新潟市が原爆投下の候補地であり、一時は街から人が避難していなくなったことや、強制連行されあるいは捕虜となった外国の方々も新潟の地で多く亡くなったことなどについても学習をしました。

この度、当事業に参加した中学生の感想を報告文集としてまとめました。

この文集を通して、より多くの人から戦争の悲惨さ、平和の尊さを再認識していただくとともに、戦争の事実が風化することなく後世に語り継がれることを願っています。

目　　次

１　日程表・参加者名簿　１、２

２　参加中学生による感想文

井上　迪姫　（新潟明訓中学校）　３

今井　楓　（木戸中学校）　４

小田　佳名美（高志中等教育学校）　５

神田　柚葉　（松浜中学校）　６

鈴木　遥菜　（白根北中学校）　７

中村　萌香　（曽野木中学校）　８

永吉　佑宇　（内野中学校）　９、１０

脇　凛太　（黒埼中学校）　１１

３　参加中学生が考えた「私+〇＝平和」　１２～１５

４　アンケート結果　１６～１８

５　新潟市非核平和都市宣言　１９

１　日程表・参加者名簿

令和４年度広島平和記念式典等派遣事業日程表

月日	内　　容（時間及び会場等）
８／５ （金）	新潟駅 →→→ ときの304号 →→→ 東京駅 →→ のぞみ21号 →→→ 広島駅 →→→→ （貸切バス） →→ 06：30集合　（06：58発　09：00着）　（09：30発　13：23着）　※新幹線内で昼食 平和記念公園見学（ボランティアガイド付）→→→→→ 被爆体験講話 →→→→→ （貸切バス） →→ 14：00 ～ 15：30　16：00～ 17：00　平和記念資料館 ホテル（チェックイン・荷物預け）→→ （貸切バス） →→ 夕　食 →→ （貸切バス） →→→ ホテル 17：25 ～ 17：50　18：30 ～ 19：30　19：40 【宿泊：三井ガーデンホテル広島】
８／６ （土）	ホテル →→→→→→→→→→→→ （徒歩） 平和記念式典参列　8:00～8:50 →→→→→→→→→ （徒歩） 06：10朝食　06：50出発（※制服）　07：00会場入 ワークショップ →→→→→→ 昼　食 →→→→→→ 原爆被害者証言のつどい →→→→→ （徒歩） 10：00 ～ 12：00　広島YMCA３号館　12：10 ～ 13：00　広島YMCA３号館　13：30 ～ 15：30　広島YMCA 本館 本通り商店街（買い物・自由夕食）→→→→ （徒歩） とうろう流し →→ （路面電車） →→ ホテル 16：00 ～ 18：00　18：15 ～ 19：30　20：00 【宿泊：三井ガーデンホテル広島】
８／７ （日）	ホテル →→→→→→→→→ （徒歩） 平和記念資料館見学 →→→→ （徒歩） ホテル（荷物回収）→→→→ （徒歩） 06：50朝食　07：50出発　08：30 ～ 10：30　10：50～11：00 （路面電車） →→ 広島駅(買い物・自由昼食) →→ のぞみ110号 →→ 東京駅 →→ とき337号 →→ 11：30 ～ 12：30　（12：57発　16：54着）　（17：40発　19：43着） 新潟駅 20：00解散

※８月１０日　新潟市主催　平和祈念碑献花式（新潟市中央区雲雀町１８番地　水戸教公園）に参加。
献花式への参列のほか、新潟シティガイドより戦争当時の新潟市の状況などについて説明を受けました。

参加者名簿（五十音順）

氏名	学校名	学年
井上（いのうえ）　迪姫（みき）	新潟明訓中学校	2
今井（いまい）　楓（かえで）	木戸中学校	3
小田（おだ）　佳名美（かなみ）	高志中等教育学校	2
神田（かんだ）　柚葉（ゆずは）	松浜中学校	2
鈴木（すずき）　遥菜（はるな）	白根北中学校	3
中村（なかむら）　萌香（もか）	曽野木中学校	3
永吉（ながよし）　佑宇（ゆうう）	内野中学校	2
脇（わき）　凛太（りんた）	黒埼中学校	2

２　参加中学生による感想文

新潟明訓中学校　井上　迪姫

今回の広島派遣では様々な場所を回り、色々な人の話を聞いた。被爆者講話を始め、どれもとても興味深く、心に響くものだった。その中でも特に印象に残ったのが、被爆者である古家美智子さんの話を直接聞けたことである。

古家さんの体験談はこうだ。原爆が投下された時、古家さんは爆心地から千二百メートル程離れた屋内にいた。八月六日の朝に一度警報が鳴り、二度目の警報が解除された直後のことだった。当時古家さんは居間と土間の間でくつろいでいたという。突然、視界がピカッと光って、ドォン、と大きな音が脳を揺さぶった。気付けば、右半身は爆風で飛んできたガラス片が突き刺さり血まみれになり、上から落ちてきた梁で体は押しつぶされていた。外で鳥小屋の修理をしていた父親が靴のまま駆け込んできて、必死に名前を呼びながら古家さんを助けだした時、古家さんは血だらけで声も出せない状態だった。古家さんの両親は何度も、「死んでしまったな」と思ったという。古家さんは両親に祖母と代わる代わる背負われ、両岸が燃えている橋を必死の思いで逃げた。それは、平時の逃げ方ではなかった。死体や瀕死の人々を踏み越え逃げる時、古家さんは固く目を瞑っていたという。

古家さんの話を聞いたとき、私は酷く悔しかった。同じ人間であるにも関わらず、人間として扱われない。私だったら、きっと耐えられないだろう。ましてや、皮膚がむけ、肉が焼けただれ、耳や鼻は溶け落ちるなど、死んだほうがマシだと思っただろう。けれども、恐らく私は被爆した方々の苦しみや悲しみを本当の意味ではまだ理解できていないと思う。なぜならば、古家さんの話を聞いたあとに行った広島平和記念資料館で見た手記や手紙、遺品などの展示の数々をみてものすごい衝撃を受けたが、どのようにその現実と向き合えばいいのかが、正直分からないからだ。

また、古家さんは今年の広島平和記念式典での岸田総理のスピーチについて、口では核兵器をなくそうと言っているにも関わらず、アメリカに気を遣いすぎるがゆえに、実際の行動が伴っていないという点と、被爆者の気持ちを理解していないかのようなスピーチだった点から、物足りないと言っていた。

本来ならば、広島出身である岸田総理は被爆者の苦しみや悲しみを一番理解し、世界へ発信できる、また、しなければならない立場だったが、現在日本はアメリカの核の傘に護られているため、それを否定するような発言ができなかったのではないかと思い至った。

果たして、それは本当の平和と言えるのだろうか。

私には、世界を動かすような大きなことはできないが、今回学んだことに向きあうために、色々なことを学び、また、今回学んだことを自分のものとし、今ある日常がたった一発の核兵器で一変してしまうということを一人でも多くの人に伝え、そのことにより、第二の被爆国が生まれない世界へ少しでも繋げていく。

そして私は、声を大にして叫びたい。核兵器というものは、非戦闘員である一般市民を大量虐殺する兵器である。それは、明らかな国際人道法違反であり、戦争犯罪ということを。

平和への第一歩

木戸中学校　今井　楓

私は、広島に行って、被爆者証言のつどいに参加しました。今回お話をしてくださったのは、古家美智子さん（80）です。

七十七年前の八月六日八時十五分に、人類に初めて原爆が投下されました。原爆は上空約六千メートル地点で爆発。中心部は約三千～四千度で一瞬のうちに広島は火の海になりました。赤や紫、緑色、黒こげになりギョロッとした目をこちらに向けている死体があちらこちらにころがっていました。見た目ではもう性別がわかりません。髪が焼け縮れていたり、目がとび出ていたり、血だらけで皮膚が剥がれ落ち、口がたらこのように腫れている人であふれかえっていました。

広島は、原爆がおとされるまで空襲警報がなっても爆弾を落とされることはありませんでした。八月六日の朝、空襲警報が解除された直後に原爆が落とされました。当時、古家さんは三歳で家でくつろいでいました。そんな時に原爆が落ち、右半身にガラス片を受け、二～三メートルふきとばされた後、天井や梁がおちてきて下敷きになりました。なんとかたすけ出された古家さんは、意識不明の重体で右半分は、ガラスがささり血まみれだったそうです。古家さんは意識がもどった後も無数のガラスの傷に苦しめられました。傷のせいでよく「キッポ（広島弁で傷）」と言われ、体も心も痛かったと言っていました。古家さんの顔にささったガラスは約三十年間抜けませんでした。ですが、病院で仲良くなった友人がふざけて右ほほをつねったところ飛び出してきたそうです。ガラスの大きさがなんと、縦十八ミリ×横七ミリ×厚さ一ミリの大きさでした。そのガラス片はすぐに広島原爆資料館に寄贈したそうです。古家さん曰く「自分がもっていても死んだ後、ゴミとして捨てられてしまうかもしれない」と思い寄贈したそうです。初めて会った人に傷のことを聞かれても仲良くなるまでなかなか言い出せなかったそうです。

一瞬にして日常、家族、友人、大切な人を奪われた人達。生き残っても失った悲しみや、後遺症を抱え生きていかなければなりませんでした。現在、核保有国は、アメリカ、イギリス、フランス、ロシア、中国の五か国ですが、インドやパキスタン、北朝鮮も保有を認めています。核抑止のための保持とは言いますが、核を持っていることで相手も使わないという保証はありません。本当に抑止するのなら一か国、一か国が手放さなければならないと思います。どこかの国が核兵器を持っていると、いつ核が使われるかという恐怖と共に生きていかなければなりません。絶対にあの過ちは繰り返してはいけません。

唯一の被爆国として、原爆のおそろしさを伝えていく義務があると思います。しかし、被爆者の平均年齢が八十四歳を超え、語り手が少なくなってきています。一人一人が原爆の悲惨さを理解し、声をあげていくことこそ平和への第一歩になると思います。私のこの声も戦争を抑える一つの力になることを願っています。

被害者、そして加害者

高志中等教育学校　小田　佳名美

地下に向かうスロープを時計の針と逆回りに下る、つまりあの時へと遡り、たどり着く平和祈念死没者追悼空間、そこに待っていたのは当時のヒロシマの、いわゆる焼野原の状態を表した十四万枚のタイル。十四万枚というのは、一九四五年十二月までに原爆により亡くなられた人の数だそうです。三六〇度、どこを見ても広がる当時のヒロシマの悲惨な様子に驚きました。ここは国立広島原爆死没者追悼平和祈念館、私が非常に印象に残った場所です。この祈念館は国として原子爆弾死没者の尊い犠牲を銘記し、追悼の意を表すために作られたものです。また、それと同時に、永遠の平和を祈念するものでもあります。入り口のモニュメントは当時のことを忘れないように爆心地に向かって、原爆が投下された時刻の八時十五分を表しており、その周りには当地から出土した被爆瓦が置かれていました。私は改めて原爆の被害の大きさを目の当たりにするとともに、原爆のことを決して忘れてはいけないのだと、より強く感じました。

さらに、何よりも、被爆者から直接話を聞くことで戦争の悲惨さを学ぶことができました。戦争から七十七年。長い年月が経過し、被爆者が高齢化したことで話を聞くことができる機会が少なくなってきました。また、被爆者の中には悲惨な経験を思い出すのが辛く、お話を伺えないこともあります。そんな中、私たちは二人の被爆者の方々から貴重なお話を伺うことができました。二人とも当時子どもだったそうです。今の私よりもずっと幼かったにも関わらず、一瞬にして家族を、未来を、奪われました。そんな中、子どもを守るためにと、親が必死に働き、食べ物を与え、なんとか生かそうとしてくれたそうです。二人とも家族への感謝を感じ、一日一日を大切にしなければいけないと感じたそうです。お話の中で、私たちは被害者であると同時に、加害者であることを忘れてはいけない、という言葉が特に印象に残りました。今回お話された古家美智子さんは、仕事で海外の人、特にアメリカの人と接する機会が多かったそうですが、アメリカの人が口々に言うのは「リメンバー・パールハーバー」真珠湾攻撃のことだったそうです。世界で唯一の被爆国日本だから、日本人は被害者であることは理解していると思いますが、私たちは同時に加害者であることを忘れてはいけないと言われ、はっと気づかされました。

この研修を通して、いろんな感情を抱えながら被爆者の方が伝えてくれた、戦争や原爆の体験を決して風化させてはいけないと改めて感じました。現在、核兵器の使用を示唆した威嚇により国際社会に緊張が高まっていますが、そんな世の中を問題視せずどこか遠い目で見ている人が、多かれ少なかれいると思います。そんな人がこの問題に真摯に向き合えるよう、被害者、そして加害者である日本人の一人として私自身も真摯に向き合っていきたいです。

平和について

松浜中学校　神田　柚葉

私は、８月５日から８月７日に広島への派遣研修に参加しました。３日間の間で被爆体験講話を聞いたり、様々な場所を見学し、今まであまり深く考えたことがなかった平和について、学び考えました。その中で深く印象に残ったことは３つです。

１つ目に印象に残ったことは、原爆の恐ろしさです。被爆体験講話や資料館などから被爆された方々が当時できた怪我や放射線の影響での後遺症で亡くなられていること、今もなお苦しんだり悩まされていることがわかりました。怪我などの外傷だけでなく被爆者への偏見や差別など精神的な面でも深い傷を負っていることがわかりました。資料館には、当時の写真やそのことを描いた絵などが展示されていて講話でみなさんが語っていた、「この世とは思えなかった。」という言葉の通り今では想像もつかない地獄かと思うような光景でした。

２つ目に印象に残ったことは、平和を願う人々の思いです。広島へ行って平和とついているものの多さに驚きました。それと同時に広島にとって平和がどれだけ大きいものなのかやどれだけ大切なものなのかに気づくことができました。平和記念公園にある平和の灯には世界から核兵器がなくなるまで燃やし続けるということを聞いて、多くの犠牲者の方の思いや平和を願う人々の思いがたくさんあることを感じました。平和記念式典でも内閣総理大臣や国際連合事務総長、こども代表など本当に様々な人たちが原爆に関心を持ち、平和を願っていることがわかりました。

３つ目に印象に残ったことは、平和の大切さです。平和記念式典でのこども代表の「悲しみを受け止め、立ち上がった被爆者は、私たちのために、平和な広島を創ってくれました。」という言葉を聞いて、普段あたりまえと思っている平和は多くの犠牲の上に立っていることを感じ平和の大切さがわかりました。

最後に、戦争や原爆の事実を伝える証言者の方々が高齢になり少なくなっている中で、関心を持ちそういった事実があったということを自分が次へ繋いでいきたいと思っています。

世界中の平和のために

白根北中学校　鈴木　遥菜

私は八月五日から七日まで広島に平和について学びに行きました。その中で特に印象に残ったことが三つあります。

一つ目は、平和記念公園です。「アオギリ」という木がありました。アオギリは熱線と爆風で焼けたため、枯れ木同然となってしまったそうです。しかし、翌年の春に芽吹いたので当時の人々に「生きる勇気」を与えたと知り、アオギリの存在は偉大だと感じました。

公園内にある平和の灯はどんなに天候が悪くても世界中から核兵器が無くならない限り火が消えないということを聞きました。核兵器によって悲しむ人がいなくなる世界を築くために身近なところから貢献していきたいと思いました。

二つ目は、平和記念式典です。私はこの貴重な式典に初めて参列しました。岸田内閣総理大臣、国際連合事務総長、こども代表、広島市長などが平和への言葉を述べていて私も共感できる内容でした。

会場は緊張感のある雰囲気がありました。しかし、平和に対する一体感が伝わってきました。また、広島市内の高校生が合唱や演奏をしていて若い世代との連携もあり、世界へと発信しているのだと感じました。

三つ目は、被爆者の方々のお話です。被爆者の脇舛友子さんの話では原爆が投下された瞬間は「ピカドン」と表現される音と光を見聞きしたそうです。あたりを見渡すと、空は真っ赤で街を歩いている人たちは全身傷だらけ、血だらけ、皮膚がただれた人がたくさんいたそうです。もし、私がその場所にいたらと考えるととても恐ろしくて耐えられないと思いました。資料館で見た資料や写真を見ると実物は直視できないほど悲惨なもので当時の光景が目に浮かぶようでした。

また、同じく被爆者の寺尾興弘さんは「夢と希望は大きく、人生努力」という言葉を教えてくださいました。この言葉を聞いて私も心に留めたいと感じました。一人でも多くの人が核兵器や戦争に対する意識が高くなれば人類に笑顔が増えると思います。実際に被爆した方のお話を聞くとインターネットや本、教科書に載っていない緊迫感や臨場感、不安を詳しく知ることができました。

私たちが当たり前に感じている毎日を大切にし、日常生活に溢れている幸せに感謝をしたいと深く思いました。

「平和とはどのような状態なのか」と問われると簡単に答えることはできません。しかし、私なりに考えてみると、「柔軟性」と繋がるのではないかと思います。常に世界情勢を理解しながら変化し続けたいです。

私はこの研修から戦争の悲惨さや原爆の恐ろしさを学びました。学ぶだけだなく、一日でも早い核兵器廃絶へ向けて行動を起こしていきたいです。

大きな誤ちと平和

曽野木中学校　中村　萌香

「ピカッドーン！」

今から七十七年前に広島に落とされた原子爆弾。それは約十四万人程の命を奪いました。今回私達はその原爆について、平和について学びに広島へ行ってきました。

平和記念公園、被爆体験講話、平和記念式典、ワークショップ、原爆被害者証言のつどい、とうろう流し、平和記念資料館など色々なところへ行きましたが、その中でも特に心に残り考えさせられたのはワークショップと原爆被害者証言のつどいです。

ワークショップでは四人グループになって平和とは何かをじっくり考えました。新聞の記事を平和か平和じゃないかに分けて一つ一つの記事について話し合いました。全員が平和だと思うものもあれば、意見が分かれるものもあって人それぞれの平和があるんだなと思いました。たとえば、「色んな立場の人たちが未来へくり返さないために意見を出し合って話し合う」や、「自分が良い未来を作るために相手に興味を持つこと」などが平和として出ました。私はこのワークショップを通して、平和とは「お互いを理解・尊重・大切にしあう」ことだと思いました。そのために私はこれから相手の事を考え理解しあい、友好関係を築いていこうと思いました。

原爆被害者証言のつどいでは実際に被爆された古家さんのお話を聞かせていただきました。戦時前の状況、戦時中のくわしい事などを教えていただいて、より原爆の恐ろしさを知ることが出来ました。古家さんのお話で特に心に残ったのは終戦後のアメリカ人からの対応のお話です。古家さんは会社の関係でアメリカ人と関わる機会があったそうなのですがその際に握手を避けられ、目も合わせてくれなかったそうです。私は「過去に日本を被爆させてしまっているから接しづらいのかな」と思ったのですが、古家さんが「アメリカも日本に加害されているので日本が許せないのだろう。」「日本は被害者と同時に加害者。」と仰り、なるほどと思いました。私は日本は被害者側だと思っていたのですがそういう考え方があったなと改めて考え直し理解を深めることができました。

今回広島に行って私は沢山の事を学びました。私は「平和」という言葉を今まで何回も使ってきましたがここまで深く考えた事はありませんでした。そして平和は十人十色な考え方があることを実感しました。これからは一概に「平和」という言葉を使うのではなく相手にとっても自分にとっても平和なのかを考えて使いたいです。それに、平和記念式典やつどいに参加して、戦争は決して昔の事ではないんだと思い直すことができました。今も地球に核兵器は存在するし、いつ今の幸せな生活が終わるか分からない。そんな中で私たちは今一度平和について考え直しもう二度と戦争という大きな誤ちをくり返してはいけないと思いました。

平和について考えることの大切さ

内野中学校　永吉　佑宇

私は今回参加させて頂いた平和派遣事業で様々な貴重な体験をさせていただきました。その中で、YMCA2 号館で開催されたワークショップの、その時平和についてとても考えさせられました。

平和とは一体どんなものなのか自分なりに考えてみると、平和には２つの観点があることが分かりました。それは、「どんな場所が平和」で「誰のためにあるのか」についてです。

まず、どんな場所かについてです。私はまず平和と感じる瞬間はどんな場所かについて考えてみました。すると、平和であると意識しているときは、平和でない状況があり、そこと比較しながら平和と感じている自分がいることに気付きました。つまり平和というのは、周りが平和ではないと認識することで初めて位置付けられるものでないかと思えます。

以上のことを踏まえて平和とはどのような場所なのか考えてみると、他と自分を比べた時に感じる安心感の一種ではないのかと考えることもできるのではないでしょうか。

すると、今までの自分の平和のイメージが、かけ離れていてとても驚いたのと同時に、平和に対して更なる考察が必要ではないかと感じました。

次に平和とは誰のためにあるのかについてです。これについては、ズバリ言うと平和とは人間一人一人の中に存在していて、自分と自分を取り巻く周りのために存在するものだ、と考えました。つまり、自分の知りうる人が安心して生活しているという実感が持てることが大切であり、更にその知りうる人々が、関係する人々の安心も担保されている状況が誰のためでもある平和だと考えました。そう考えた理由の一つとして原爆資料館で聞いた被爆者の体験談の中に、お父さんが自分の放射能障害を治すためだけに一生懸命働いてくれたというのがあり、そのお父さんも娘の将来の平和を願って働いていたのではないかというのも理由の一つです。

以上２つの観点を踏まえて「平和」についてまとめると、平和というのは周りが平和でないことで感じる事が出来、自分や周りの人間がずっと安心して過ごしてほしいという人々の願いから生まれた概念であるのではないかと私は考えました。このように考えていくと、私自身核戦争が起こりうる現代の社会情勢に問題があると思いますが、核兵器廃絶を目指すための核兵器の規制というのは簡単には規制できないというのも感じます。核兵器を持っている国も核がないと平和を維持できないと考えているからです。

平和の対義語についても少し考えることがありました。普段当たり前のように使っている「平和」という言葉ですが、そもそも平和とは本当に安心・安全が保障されている状態を表す言葉なのでしょうか。辞書で平和の対義語について調べてみました。すると、「戦争」が平和の対義語と書かれています。しかし、本当にそうでしょうか。核兵器を持っている国は戦争になったとき有利に立ち回るため、核を保有しています。その状態は他と比べた

ら平和といえます。しかし、核を持っていることで戦争に巻き込まれる可能性だってあります。この状態は、安心できるとも言えますが、とても不安定な状態なのではないでしょうか。

すると、「平和」の対義語が必ずしも「戦争」といえなくなってきているといえます。こうなってくると核兵器というものがこれまでの価値観をも壊してしまうものと考えることができるのではないでしょうか。

広島に行って私は、原子爆弾の破壊威力の大きさや核兵器の恐ろしさ、又、核兵器の依存性などについて考える事がたくさんあることが分かりました。平和という言葉にも考察を深めることもできました。これからは核兵器の恐ろしさや簡単には手放さない依存性なども加味しつつ核兵器廃絶に向けて自分なりに考えていけるようにしたいと思います。又、この考えにたいして「違う」と考える人もいると思います。そのような人たちを否定せずに考えを尊重して、皆で平和について考えを深めることが大切だと感じました。自分の通う学校でも平和について考えることの大切さを伝えていきたいと思います。

僕が広島で学んできたこと

黒埼中学校　脇　凛太

僕は平和事業に参加して、いろんなことを感じ、学びました。

平和記念公園を見学し、その時印象に残ったのが、佐々木禎子さんの像でした。そこには沢山の折り鶴がありました。

佐々木禎子さんは、2歳の時に被爆し小学校6年生までは元気に過ごせてたものの、その後白血病にかかりました。闘病中に、千羽鶴を折ると病気が治ると信じ、おかしの包み紙などを使い、一千羽折りましたが、その願いもむなしく亡くなってしまいました。

佐々木さんの将来の夢は、体育教師になることでした。それを叶えることはできませんでした。

この話を聞いて、かなえたい夢があるのに戦争や原爆のせいで思い描いていた未来や夢をかなえることができないまま、亡くなってしまうことになるような戦争や原爆の愚かさや怖さ、そして平和の尊さです。佐々木さんは、戦争や原爆がなければ、自分の夢を叶えることができていたのかもしれません。なので、当たり前のように過ごせてる毎日は平和であって、それは幸せだということが気づいてないひとにこの話を伝えたいと思いました。

次に平和式典で、小学 6 年生山崎鈴さんとバルバラ・アレックスさんによる平和への誓いが印象に残りました。特に「自分が優位に立ち、自分の考えを押し通すこと、それは強さとは言えません。本当の強さとは、違いを認め、相手を受け入れること思いやりの心を持ち、相手を理解しようとすることです。本当の強さを持てば、戦争は起こらないはずです。」という部分です。これを聞いて僕はとても感動しました。

「本当の強さ」をみんなに伝えることが僕にできることだと思いました。

今はまだ、身近な家族や友達との話でしか伝えることができないのかもしれないけれど、この小学生の平和への誓いを一人でも多くの人に知ってもらえるよう話していきたいです。

僕は、この研修で二人の被爆者の方から直接お話を聞きました。被爆した人々は、おばけのようで、怖くて、ずっと目を閉じてるほどだったこと、学びや健康に暮らせることの幸せです。さらに、被爆した時の大変な暮らし、安全な水が飲めることがとても幸せだということです。

この研修で、戦争や原爆は人々の幸せな暮らし、家族、夢、全てを簡単に崩壊させてしまうことであり、もう二度と繰り返してはいけないし、繰り返させないことだと僕は強く思いました。

そのため、少しずつではあるものの、できるだけ多くの人々に、戦争や原爆のこわさ、愚かさ、平和の尊さ、ありがたみを伝えていくのが、自分にできることだと思いました。

３　参加中学生が考えた
「私+〇＝平和」

研修２日目、特定非営利活動法人「これからの学びネットワーク」による
ワークショップに参加しました。「ピースクリエイターになろう」というテーマで平和について考え、自分に何を足せば平和な世界をつくる人になれるか、
「私+〇＝平和」で表現しました。

氏名: 牛上 迪姫

特定非営利活動法人これからの学びネットワーク
※不許無断使用

私 ＋ 生活環境 ＝平和

理由もしくは解説：
食料・水・衛生的な空間の3つが満たされた生活環境を手に入れることで、最低限の生活を送ることができ、幸せへのスタートライン・平和になれるのではないかと思ったから。

氏名: 今井 楓

特定非営利活動法人これからの学びネットワーク
※不許無断使用

私 ＋ 過去 ＝平和

理由もしくは解説：過去をふり返ることで、あやまちを直し平和につながると思ったから。

氏名: 小田 佳名美

特定非営利活動法人これからの学びネットワーク
※不許無断使用

私 ＋ 行動力 ＝平和

理由もしくは解説： ただ平和になるのを待っているだけだと何も起こらないから、自分で声をあげることが平和につながると思うから。

氏名: 神田 柚葉

特定非営利活動法人これからの学びネットワーク
※不許無断使用

私 ＋ 経験 知識 ＝平和

理由もしくは解説：

戦争のことをもっとよく学び、理解して、知識を増すことで、いろいろな人の考えを理解することにもつながるし、経験することで、普段では気にしていなかったことにも気づいたりすることができると考えたから。
知識を増すために学ぶことで、他の国の人にも理解してもらえることも、あると思ったから。

氏名: 鈴木 遥菜

特定非営利活動法人これからの学びネットワーク
※不許無断使用

私 ＋ 柔軟性 ＝平和

理由もしくは解説：

どんなことにも柔軟性を持ちながら常に変化し続けることが平和につながると思ったから。
1つの意見で判断せずにたくさんの考えを大切にすることが必要。

氏名: 中村 萌香

特定非営利活動法人これからの学びネットワーク
※不許無断使用

私 ＋ 相手のことを想い、考え、尊重し合い、友好関係を結ぶこと。 ＝平和

理由もしくは解説：

相手は「何をすれば喜んでくれるだろう、どうすれば笑ってくれるだろう、どうして困っているのだろう」と考え、自分が出来ることをし、険悪にならないよう務めること

氏名: 水吉佑宇

特定非営利活動法人これからの学びネットワーク
※不許無断使用

私 ＋ 経済力(お金) ＝平和

理由もしくは解説：

もし自分の国で戦争(いくさじゃない)がおこったとしてもお金があれば、平和な他の国へ亡命することができるし、戦争がおこっていなくても食べ物がなくとうえに苦しむこともないし、住む場所に困ることもないから。又、お金があれば寄付などをして他国の平和のために行動することもできるから。

氏名: 月岡凛太

特定非営利活動法人これからの学びネットワーク
※不許無断使用

私 ＋ 良い未来をつくるために、互いを理解・尊重・大切にしあうこと ＝平和

理由もしくは解説：

良い未来(平和)をつくるため、難しいけれど他国の人々・立場が180°ちがう人たちの親・思いを理解し、その意見が自分の意見と正反対だとしても、理解し尊重し、大切にするよう精一杯努力することで、平和に近づけると思うから

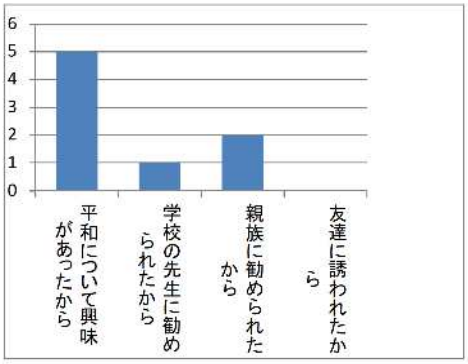
４　アンケート結果

「広島平和記念式典等派遣事業」参加者アンケート

回答者数　8　人

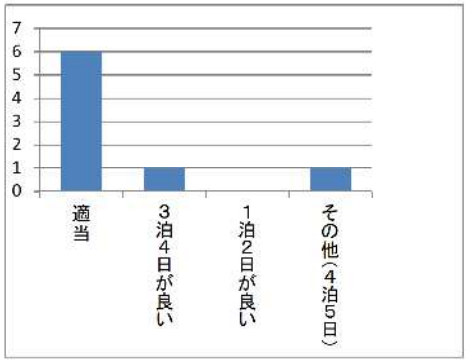
1　参加したきっかけを教えてください

選択肢		回答数
ア	平和について興味があったから	5
イ	学校の先生に勧められたから	1
ウ	親族に勧められたから	2
エ	友達に誘われたから	0



2　2泊3日の日程について

選択肢		回答数
ア	適当	6
イ	3泊4日が良い	1
ウ	1泊2日が良い	0
エ	その他（4泊5日）	1

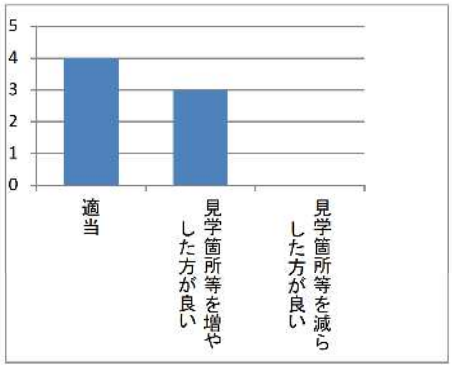


3　2でア以外を選んだ場合、その理由

・もっと広島の歴史を知りたいと思ったから。体験講話をもっと聞きたいです。
・2日目に仲良くなれたので、もう1日過ごせたらいいと思った。

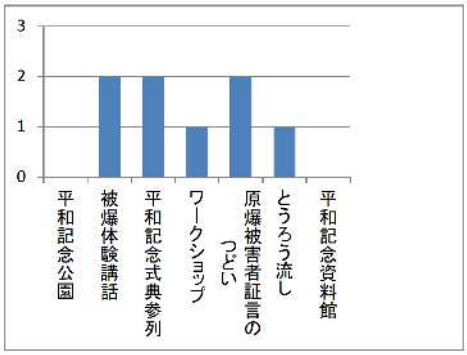
4　行程の内容について

選択肢		回答数
ア	適当	4
イ	見学箇所等を増やした方が良い	3
ウ	見学箇所等を減らした方が良い	0



5　行程の中で特に良かったものは何ですか

選択肢		回答数
ア	平和記念公園	0
イ	被爆体験講話	2
ウ	平和記念式典参列	2
エ	ワークショップ	1
オ	原爆被害者証言のつどい	2
カ	とうろう流し	1
キ	平和記念資料館	0

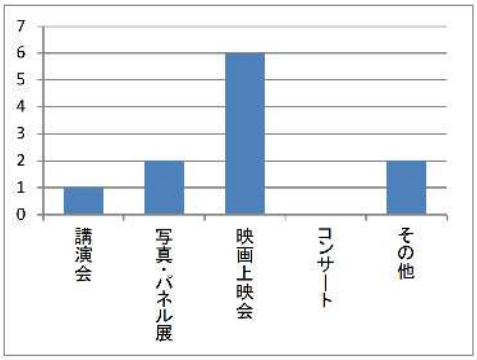


6　上記以外で行ってみたい平和学習ができる施設、イベント等があれば記載してください。（広島県内）
・原爆ドーム付近　可能であれば内部
・爆心地

7　市が主催する平和推進事業について、特に若い世代の方々から平和に関心を持っていただけるようにするにはどうすればよいかお聞きします。

（1）事業の種類について（複数回答可）

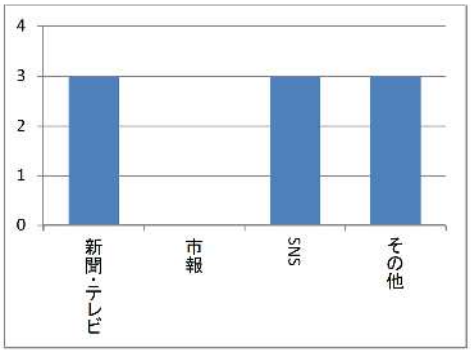
選択肢		回答数
ア	講演会	1
イ	写真・パネル展	2
ウ	映画上映会	6
エ	コンサート	0
オ	その他	2



その他の内容
・新聞等紙面にコーナーの設置
・演劇

（2）周知の方法について（複数回答可）

選択肢		回答数
ア	新聞・テレビ	3
イ	市報	0
ウ	SNS	3
エ	その他	3



SNSの例
・インスタグラム
・ツイッター
・YouTube

その他の内容
・学校にプリントを配布する
・学校のクラスの掲示板
・学校の掲示物

（3）開催時期について（時期、時間帯など）
・春か秋（涼しくて来やすい）
・夏休みなどの長期休暇
・夏休みなどの長期休み
・夏休み午前
・日曜の午後等、部活や行事にかぶらない時
・週に1度
・年中
・今のままで良い
・平和式典とかさなっていたのでとても良かったと思います

8　その他　今回の研修に参加しての感想や意見等あれば自由に記載してください。
・戦争から77年がたち、戦争を体験した方のお話を直接聞く機会が少なくなっている中、2人から話を伺えたため、より戦争の悲惨な様子が伝わってきた。
・どの施設もとても学習になった。特に被爆者の言葉は重く、今までで1番心に響いた。
・普段、普通と思っている平和がとくべつだということにきづけたのでとてもいい経験でした。
・今回の研修に参加して、ワークショップなどで平和についてもっと深く考えることができました。
・ふだんできなく、一生に一度あるかないかの体験ができてよかったです。またこのような催しがあったら応募したいです。
・すごく勉強になりました。高校生も募集してほしいです。
・平和について興味を持つことができた。他校の人たちと関わることができて良かった。
・他の学校の人と話せて楽しかった。

新潟市非核平和都市宣言

わたしたちのまち新潟市は，
日本海に面した湊町，また，実り豊かな田園地帯として発展してきました。
いま，市町村合併によって，新・新潟市に生まれ変わり，
水と緑に恵まれた魅力ある国際都市として，
本州初の「日本海政令市」を目指しています。

先の大戦で，わたしたちは，尊い生命や貴重な財産を失いました。
新潟市は，広島・長崎と並ぶ原爆投下予定地のひとつでした。原爆を怖れ市民が一斉避難した日もありました。
あれから60年。
わたしたちは，現在のわたしたちの暮らしが，戦争による多くの方がたの尊い犠牲の上に成り立っていることを忘れてはなりません。そのことを後世に伝えていかなければなりません。

核兵器の廃絶と世界の恒久平和が，わたしたちの永遠の願いです。
しかし，いまだに世界各地で紛争が絶えません。
飢餓，貧困，差別，人権侵害，環境破壊‥‥，平和な暮らしを脅かすものが，世界に満ちています。
わたしたちの暮らす北東アジアでも緊張関係が続き，核兵器の脅威が強まっています。
わたしたちは，核兵器の不拡散，そして廃絶を強く訴えます。

わたしたちの安心で安全な暮らしを脅かす全てのものを無くすこと。
地球上の全ての人びとが，平和で豊かな暮らしを送ること。
地球全体が，共生互恵関係を築き，ともに繁栄発展すること。
それが，わたしたちの願いです。世界の人びとの願いです。
わたしたちは，そのために不断の努力を重ねていきます。

海のむこうは，友となる国ぐに。
わたしたちは，世界の平和のかけ橋となります。
子どもたちの未来のために，
わたしたちの暮らす北東アジアの人びとが，世界の人びとが手をとりあって，
日本海を「平和の海」に!

新しい新潟市誕生の記念すべき年に，
核兵器の不拡散，そして廃絶を願い，
環日本海の友好・交流の拠点都市として，
北東アジアをはじめ広く世界に向けて，
新潟市が非核平和都市であることをここに宣言します。

2005年10月10日　　新　潟　市

令和４年度
広島平和記念式典等派遣事業
令和４年８月
発行　新潟市総務部総務課